

山口情報芸術センター開館5周年記念事業

YCAM／湯田温泉／中心商店街



情報と文化の交流拠点として2003年11月に開館した山口情報芸術センターは、今年で開館5周年を迎えます。これを記念し、2008年度は開館5周年事業として、アート、シアター作品の滞在制作、特別企画展、市民参加型のワークショップ、シンポジウム、活動記録の出版を行います。

これらの事業展開を通じ、これまでのセンターの活動を検証、地域への貢献、国際的な成果を評価し、アートがもたらす“まち”への可能性を追求していきます。

YCAMから館外へ一歩足を踏み出し、湯田温泉や中心商店街とも連携しながら、山口のさまざまな人・文化とコラボレーションを行うことで、新たな展開へつなげていきたいと考えています。

山口が持つ魅力的な財産が互いに出会うことで、それぞれの境界を越えた新しい価値と共感を生み出し、“ひと”“まち”を動かすエネルギー“都市のちから”へと発展していく、そんなモデルケースになることを期待しています。

5周年事業 スケジュール(予定)

2008年 5月—	ワークショップ1「meets the artist 2008」[制作作品発表：12月]
7月5日(土)—10月13日(月・祝)	展覧会1 「大友良英 / ENSEMBLES」展 (おおともよしひで／アンサンブルズ)
9月25日(木)—28日(日)	ワークショップ2「InterLab Camp vol.1」
11月1日(土)	開館5周年記念出版
11月1日(土)—3日(月・祝)	5周年記念シンポジウム
11月1日(土)—2009年2月8日(日)	展覧会2 「ミニマム インターフェイス」展
11月～12月	展覧会3 Yuda Art Project (湯田温泉地区)
12月20日(土)・21日(日)	シアター作品1 パフォーマンス公演「Op.∞」(オーパス・アンフィニティ)
2009年 2月28日(土)・3月1日(日)	シアター作品2 珍しいキノコ舞踊団 + plaplax 新作ダンス作品

お問い合わせ



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

広報担当：浅原・廣田

〒753-0075 山口市中園町 7-7 TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp URL: <http://www.ycam.jp/>

2008年5月～2009年3月(通年)

ワークショップ1

meets the artist 2008



期間：通年(5月～)、制作作品発表12月(予定)

会場：中心商店街

アーティスト：高山 明(Port B演出家)

瀬藤康嗣(アーティストユニットflow、メディアアーティスト、クリエイター)

毎年恒例となっているYCAMの長期ワークショップシリーズ「meets the artist」は、アーティストと市民が長期間(8～12ヶ月)にわたり、じっくりと向き合いながら実施してきました。今年のアーティストには近年、都市を使った演劇的なツアー・パフォーマンスを積極的に発表し、注目を集めるグループ「Port B (ポルト ビー)」の高山 明と、メディアを駆使した魅力的な作品を発表してきた「flow (フロー)」の瀬藤康嗣を迎え、パフォーマンス+インターネットという異色の取り合わせで、山口の街を舞台にプロジェクトを計画中です。一般市民の参加者のアイデアを盛り込みながら、創造的な活動にしていく予定です。

2008年9月

ワークショップ2

InterLab Camp vol.1



日時：9月25日(木)～28日(日)

会場：スタジオB

料金：レクチャーと成果発表会は参加無料、ワークショップは有料(申込要)

講師：ザッカリー・リーバーマン(メディアアーティスト)

テオドア・ワトソン(openFrameworks開発者、メディアアーティスト) ほか

YCAMのテクニカルスタッフ(InterLab)が主体となって、第一線で活躍中の技術者、研究者を迎え、メディアアート作品に使われる最新技術、ツール、環境、その応用についてのレクチャー、ワークショップ、成果発表を一連のイベントとして、開催するものです。第一回目となる今回は、最近メディアアートの制作現場で注目されている制作環境openFrameworksをとりあげ、開発者による集中ワークショップを開催します。このイベントは、単なる技術の習得だけではなく、クリエイティビティが生まれる環境やその普及についての新しい方法やプラットフォームのあり方についても探っていく予定です。

*6月下旬発行予定のプレスリリースにて、イベントの詳細、参加募集要項を発表します。

2008年7月～10月
展覧会1(滞在制作)

大友良英 / ENSEMBLES 展 (おおともよしひで / アンサンブルズ)



フリージャズ、即興演奏、ノイズミュージック、現代音楽、電子音響、映画音楽など音楽をめぐる様々な分野で、幅広く活躍する大友良英。その多彩な音の世界を、空間と映像を多角的にメディアミックスしながら、新作インスタレーションとして館内全体を使って発表します。

本展は、多数の人によって成り立つアンサンブルが、さらに複数形となって集合することがコンセプトとなっています。様々な分野の国内外のアーティスト、ミュージシャンから市民までがコラボレーションを行い、観客を巻き込みながら共鳴していきます。人が集い、交流することで見えてくる新たな風景をご期待ください。

〈ライブシリーズ〉

LIVE-1 : ENSEMBLES オープニングライブ「Songs」

日時：7月5日(土) 19:30 開演

会場：山口情報芸術センター スタジオA

出演：大友良英、カヒミ・カリィ、浜田真理子、山本精一、ジム・オルーク、一楽儀光、一楽まどか、Sachiko M、青山泰知、ベネディクト・ドリユー

LIVE-2 : orchestras オープニングライブ「Musics」

日時：8月23日(土) 1st set 14:00 開演 / 2nd set 19:30 開演

会場：1st set : 館内各所 / 2nd set : スタジオA

出演：OTOMORCHESTRA + ONJO (大友良英 ニュー・ジャズ・オーケストラ)
大友良英、高嶺 格、鮎屋法水、音遊びの会、カヒミ・カリィ、大蔵雅彦、
青木タイセイ、石川 高、Sachiko M、宇波 拓、高良久美子、水谷浩章、
芳垣安洋、近藤祥昭、rewall、サウンドワークショップ参加者 ほか多数

LIVE-3 : ENSEMBLES クロージングライブ「Networks」

日時：10月11日(土) 19:30 開演

会場：スタジオA (予定)

出演：FEN [大友良英、ユエン・チーワイ、リュウ・ハンキル、ヤン・ジュン]
山本精一

会期：2008年7月5日(土) — 10月13日(月・祝)

A 期：7月5日(土) — 9月15日(月・祝)

B 期：8月23日(土) — 10月13日(月・祝)

※8月23日—9月15日は全作品がご覧いただけます。

会場：スタジオA、B、ホワイエ、中庭 etc.

料金：入場無料(LIVE-1~3は一部を除き有料)

作品1 : quartets (カルテッツ)

A 期 スタジオB

作品2 : orchestras (オーケストラズ)

B 期 スタジオA

作品3 : without records (ウィズアウトレコーズ)

A・B 期 ホワイエ～2Fギャラリー～中庭

作品4 : filaments (フィラメンツ)

A・B 期 山口情報芸術センター内 山口市立中央図書館

コラボレータ：青山泰知、一楽儀光、石川高、ジム・オルーク、カヒミ・カリィ、木村友紀、Sachiko M、高嶺格、アクセル・ドナー、ベネディクト・ドリユー、平川紀道、マーティン・ブランドルマイヤー、国内外のプロ／アマチュアの音楽家、ボランティア

〈関連企画〉

大友良英 × 高嶺 格 トーキング・セッション

日時：6月1日(日) 14:00—15:30

会場：ホワイエ

モデレータ：小崎哲哉(『REALTOKYO』、『ART IT』発行人兼編集長)

ボランティア・機材募集説明会

日時：6月1日(日) 15:30—17:00

会場：ホワイエ

「without records」制作ワークショップ

日時：6月20日(金)—29日(日)

会場：ホワイエ、創作・学習室

こどものための即興オーケストラワークショップ

日時：8月17日(日) 14:00—

会場：創作・学習室

大友良英の音楽参加の映画作品特集上映

7月11日(金)—13日(日) / 8月1日(金)—3日(日)

9月12日(金)—14日(日)

会場：スタジオC

2008年11月

5周年記念シンポジウム

会期：2008年11月1日(土)ー3日(月・祝)

会場：スタジオA

料金：入場無料(申込不要)

YCAMの開館5周年を記念し、3つのテーマからディスカッションを行います。5年間の軌跡を振り返りながら、アートと情報メディアのさらなる可能性について探っていきます。

セッション1：YCAMコミッションワークの軌跡と展望

～山口発、世界を巡るアート作品～ (仮題)

YCAMは、他のどこでも生まれ得なかった作品を「いま・ここで」制作し、紹介していくことにフォーカスした施設です。アーティストとYCAMのスタッフやInterLabとの共同によって滞在制作されたさまざまな作品は、その後国内外各地で展示・上演され、また作品そのものもつねにアップデートにより成長しています。当事者のアーティストによる作品の展示経過や各地でのリアクションの報告を交えながら、YCAMとアートシーンの5年間を振り返ります。さらにアートと情報メディアの今後、国際的なシーンで地方都市が文化を発信していく意義について討議します。

モデレータ：福田 幹 (YCAM InterLab マネージャー)

パネリスト：(交渉中)

セッション2：メディアアートとニュープロダクション

～プロダクション・コミュニティの出現とその可能性～ (仮題)

オープンソースやwikipediaに代表されるような企業を越えて多数の人が共作するピアプロダクション、フリーライセンスや作品の共有と改変から生まれる創造性、個人がものを作り出していくパーソナル・ファブリケーションなど、新しい形のプロダクションと、それらを育み流通させる「コミュニティ」の関係の可能性と展開について探ります。YCAM InterLabが国内外のアーティストやエンジニアと行ってきたコラボレーションワークについても紹介し、メディアアートの制作プラットフォームのモデルを提案します。

モデレータ：久保田晃弘 (アーティスト、多摩美術大学教授)

パネリスト：(交渉中)

セッション3：発想法を発見する

～アートセンターから発信するもうひとつの教育～ (仮題)

YCAMでは、従来の学校教育や美術館教育の枠組みにとらわれない新しい形のメディア教育を模索しています。自然環境、社会環境と並列した第三の環境としてのメディア環境を想定し、その新しい環境における造形感覚、時間感覚、オリジナリティと共有の発展的感覚について探求します。また、自然や社会のなかのローカリティ (地域性) とメディア環境との関係をとらえなおし、創造的な環境とは何かについて新たな見地から再考察します。

モデレータ：竹下暁子 (YCAM パフォーミングアーツ・プロデューサー)

パネリスト：(交渉中)

* 9月上旬発行予定のプレスリリースにて詳細を発表します。

2008年11月～2009年2月

展覧会2(滞在制作)

「ミニмум インターフェイス」展



「reactable」 photo: Xavier Sivecas

会期：2008年11月1日(土) —2009年2月8日(日)

会場：スタジオC、ホワイエ、中庭等

料金：入場無料

出品作品：reactable（スペイン）ほか、国内外のアーティストによる多数の作品を展示予定。

本展は、情報文化の基礎をなす「インターフェイス」の新しい可能性に注目する展覧会です。

例えば、コンピュータのキーボードは、日常に汎用化された、書くことの代理となっているインターフェイスですが、本展では、既存のデザインツールではない、アート＆デザインの発想から生み出された、身体感覚に直接うったえかける視覚・聴覚・触覚的表現によるインターフェイスを紹介し、「メディアを通じてつながること」の新しい発見や面白さを感じてもらおうとする展覧会です。この楽しさは、むしろ子供たちの方が直感的に知っています。これは、大人が、子供たちから多くのことを学ぶ展覧会です。

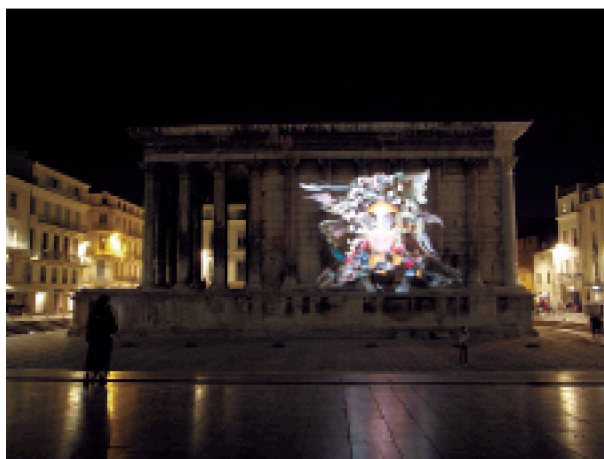
会場には、YCAMの開拓してきた独自の分野＝「アート＋身体表現」にフォーカスした、多彩なインターフェイスに関する作品が、いくつかのテーマに分けられ、YCAM館内各所に展示されます。作品のアーティストは、国内外の様々な地域から選ばれています。これらの作品体験を通して、背景にあるメディアテクノロジーの創造性や想像力を学び、インターフェイスの可能性、重要性を感じ取る機会を提供します。

ぜひ会場に実際に足を運んでいただき、五感以上の感覚をフルに使って作品を体験し、「インターフェイスとは何だろう」と考えてみてください。ご家族連れやお友達どうしで、ご一緒にゆっくりと楽しめる展覧会です。

＊「ミニмум インターフェイス」とは、言葉によるガイダンスを省いて、身体感覚を直感的に開放していく表現として、インターフェイスをとらえようとする意味が込められています。

2008年11月～12月
展覧会3(館外展示)

Yuda Art Project



exonemo 「Terminal for Pilgrimage」

会期：2008年11月1日(土) —12月(予定)

会場：湯田温泉地区各所

料金：入場無料

出品作家：exonemo エキシノモ (日本)

United Visual Artists ユナイテッド・ビジュアル・アーティストズ (イギリス) ほか

市内の湯田温泉地区の公共空間を使って、YCAMがプロデュースする「光」とインタラク션을テーマにしたパブリックアートの展示を行います。

〈関連イベント〉

アーティストトーク ほか

詳細未定

*9月上旬発行予定のプレスリリースにて、展覧会、関連イベントの詳細を発表します。

開館5周年記念出版

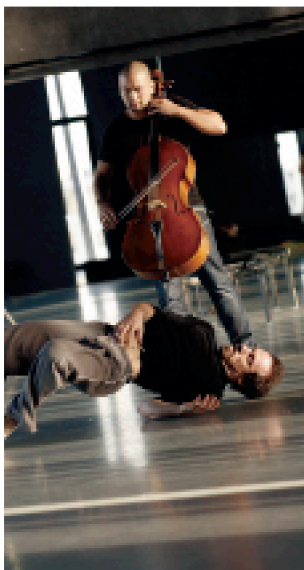
YCAMのこれまでの活動を総覧するカタログを刊行します。YCAMの活動の概要、開館以来のイベントの記録、滞在制作作品の詳細記録集、寄稿、関わったアーティストや参加者のコメントなどを豊富な記録写真とともに紹介します。

刊行：2008年11月1日(予定)

言語：日本語／英語

部数：3000部(予定)

価格：未定



「Op.∞」

2008年12月

シアター作品1 パフォーマンス公演+ワークショップ

「Op.∞」(オーパス・アンフィニティ)

日時：2008年12月20日(土)・21日(日)

会場：スタジオA

フランスの国立音響音楽研究所 IRCAM (イルカム) のリアルタイム・ミュージカルインタラクシオンチーム、パフォーミングアートテクノロジー研究チームの研究者フレデリック・ベヴィラッカと、現代音楽アンサンブル団体アンサンブル・アンテルコントロンポランのソリスト(チェロ)、エリック＝マリア・クテュリエ、そしてザ・フォーサイス・カンパニーのアソシエート・アーティストとしてニューヨークとパリを拠点に活動するダンサー、リチャード・シーガル(The Bakery主宰)、パリを拠点に活動する作曲家伊藤暁らの共同制作作品を上演します。ダンス表現を用いながら自己と他者との関係を探り、身体へのメディアテクノロジーの介在の可能性、動きと音との関係性を科学的、芸術的に模索します。

＊10月中旬発行予定のプレスリリースにて、イベントの詳細を発表します。

2009年3月

シアター作品2(滞在制作)

珍しいキノコ舞踊団+ plaplax 新作ダンス作品

日時：2009年2月28日(土)・3月1日(日)(予定)

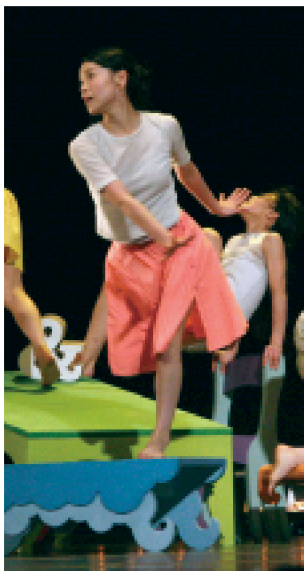
会場：スタジオA

構成・演出・振付：伊藤千枝(珍しいキノコ舞踊団)

出演：珍しいキノコ舞踊団

映像／技術：plaplax プラブラックス

技術協力：YCAM InterLab



珍しいキノコ舞踊団「3mmくらいズレてる部屋」
photo: 片岡陽太

ダンスカンパニー「珍しいキノコ舞踊団」とインタラクティブアートでの幅広い活動を繰り広げるメディアアーティストグループ「plaplax」が、1年間にわたって交流と実験を重ね、最終的には1ヶ月に渡るYCAMでの滞在制作で新作のダンス作品を作りあげます。2組のグループは、活動するジャンルが異なりますが、ポップでキュートな世界観では共通しています。この新しい出会いによって、メディアテクノロジーと舞台芸術との新しい可能性を探り、身体と映像がインタラクティブに作用する、実験的でありながら、どこかおしゃれなダンス作品が生まれます。



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

[開館時間] 10:00-20:00 (夜間イベントのある日は22時まで開館)
[休館日] 火曜日 (祝日の場合は翌日) / 年末年始 (12/29-1/3)
〒753-0075 山口県山口市中国町7-7
Tel: 083-901-2222 Fax: 083-901-2216
<http://www.ycam.jp/information@ycam.jp>



アクセス:

飛行機利用

[山口宇部空港まで]

・東京から1時間30分

[山口宇部空港から]

・乗合タクシー「空港エクスプレス」でYCAMまで 約1時間

(前日18:00までの予約制 大隅タクシー Tel: 0120-31-0860)

・空港連絡バスでJR新山口駅まで 20分

新幹線利用

[JR新山口駅まで新幹線のぞみで]

・東京から約4時間50分

・新大阪から約2時間10分

・広島から約35分

・博多から約40分

[JR新山口駅からYCAMまで]

・防長バス/JRバス 約30分、中国町下車すぐ

・JR山口線18分、湯田温泉駅下車 徒歩25分/タクシー5分

・JR山口駅21分、山口駅下車

徒歩25分/バス10分(中国町か済生会病院前下車)/タクシー5分

自動車利用

・広島から 山陽自動車道で約1時間30分、防府東ICから30分

・福岡から 九州・中国自動車道で約2時間、小郡ICから25分